

2019年4月19日
住友生命保険相互会社

国連責任投資原則（PRI）の署名について

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、国連責任投資原則（Principles for Responsible Investment、以下「PRI」）に署名しました。

PRIは、持続可能な社会の実現を目的として、機関投資家等に対し、環境（E：Environment）、社会（S：Social）、ガバナンス（G：Governance）の観点を投融資の意思決定プロセスに組み込むこと等を提唱する原則（イニシアティブ）です。

住友生命はこれまでも投融資の意思決定プロセスにESGの観点を組み込んでおり、また、ESG課題の解決を目的とした債券等への投融資も積極的に行ってまいりましたが、今回PRIに署名したことを契機に、今後、機関投資家としてESG投融資をより一層推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

また、今般、住友生命は「ESG投融資方針」（概要は別紙）を策定しており、今後PRIの実践等を通じてESG投融資のレベルアップを図ってまいります。

<PRIの6原則>

1. 私たちは、ESGの観点を投資分析と意思決定のプロセスに組み込みます
2. 私たちは、活動的な保有者となり、ESG課題を保有方針と保有習慣に組み入れます
3. 私たちは、投資対象の企業等に対し、ESG課題についての適切な開示を求めます
4. 私たちは、資産運用業界において本原則が受け入れられ、実行に移されるよう働きかけを行います
5. 私たちは、本原則を実践する際の効果を高めるために協働します
6. 私たちは、本原則の実践に関する活動状況や進捗状況に関して報告します

以上

別紙：ESG 投融資方針（概要）

<ESG 投融資に対する考え方>

ESG の観点を組み込んだ投融資は、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、ESG 投融資を推進してまいります。

<主な取組み内容>

ESG 投融資手法	取組み内容
インテグレーション	・投融資の意思決定プロセスに ESG の観点を組み込んでまいります。
エンゲージメント	・投資先企業の ESG 課題を踏まえた対話を行ってまいります。
テーマ投資	・ESG 課題の解決を目的とした投融資について、リスク・リターンも考慮のうえ、検討・実行してまいります。
ネガティブ・スクリーニング	・クラスター弾の製造企業等への投資は行いません。

今後は PRI を実践していくとともに、ESG 投融資にかかる国内外の進展等も踏まえ、レベルアップを図ってまいります。

<ご参考：これまでの主な取組み事例>

これまでの主な取組み事例	関連する SDGs ¹ 項目
<p>◆グリーンボンド等への投資</p> <p>スマートシティの実現を目指す東京都が環境事業に充当する目的で発行した「東京グリーンボンド」（2018年10月）等に投資しました。</p>	  
<p>◆マイクロファイナンス・ファンドへの投資</p> <p>ASEAN 諸国等における女性の起業を支援することを目的として組成されたマイクロファイナンス機関²向け投融資を行うファンド「Japan ASEAN Women Empowerment Fund」（2016年9月）に投資しました。</p>	  
<p>◆国内太陽光発電プロジェクトファイナンスへの投融資</p> <p>大分県（2017年2月）など国内で実施する太陽光発電事業に投融資しました。</p>	 
<p>◆環境に配慮した不動産投資</p> <p>住友生命が全国に所有する約 100 棟のテナントビルについては、省エネ型設備の導入や冷暖房設備のきめ細やかな温度設定などを通じて省エネ推進に取り組んでいます。</p>	  
<p>◆スチュワードシップ活動</p> <p>住友生命は『「責任ある機関投資家」の諸原則「日本版スチュワードシップ・コード」』を受け入れており³、投資先企業との対話を進めております。</p>	

以上

¹ Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。住友生命は SDGs などの国際的な潮流も踏まえた CSR 経営を推進しております。

² マイクロファイナンス機関：通常の商業銀行などから借入のできない貧困層（主に女性）に対して新規事業資金を融資することで自立を支援する機関

³ 詳細はこちら：<http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/group/pdf/stewardship1.pdf>